

書評

小栗昌平（弁理士）著

発明協会 発行

判例からみた工学系実務者のための特許法入門講座

1800 円（税抜き）

評者 井上 悟

入門書と称するものの中には、取り付きやすく興味を引く知識を羅列し、なんとなく分かったような気にさせるものがある。

本書は知的財産権の中心にある特許法の中核にある以下の基本的なテーマをケーススタディにより理解しようとする本格的な入門書である。

- －特許法の目的（BBS 事件、特許法第1 条、条約4 条の2 、国外用尽）
- －特許権の効力の制限（試験研究の範囲 医薬）
- －発明のカテゴリー（医薬）
- －特許発明の技術的範囲（ボールスプライン軸受け事件 均等論）
- －特許権の行使（キルビー特許関連、IC 関連）他

また、知的戦略会議、TRIPS 等の現在の動向についても丁寧な解説が行われ、ケースごとに正確な関連資料が準備されている。

ケーススタディは英米法系では、普通のアプローチである。しかし、技術系の初学者には、いかにも不慣れであるから、著者の講義に変わる若干の手助けが必要かと思われる。

評者は、この本を従来の体系的な勉強をした実務家に薦めたい。

多くの経験を積んだ実務家も激動する産業財産権の分野で活躍するために知識と頭（考え方）をリフレッシュする必要がある。その意味からも「判例からみた工学系実務者のための・・・」とのタイトルは誠に事宜を得たものであると言える。